



Weekly Market Report

Dec 27, 2021

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

先週末はクリスマス休暇などで、動意の薄い展開。今週も値幅は限定的と見られる。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週のドル円相場は113円台前半から114円台半ばのレンジで推移。オミクロン株の重症化リスクが低いとみられたことから、市場ではリスク警戒の動きが後退し、一週間を通して円安の動きとなった。週初はオミクロン株の感染拡大懸念、米金利低下に伴う米ドル売り圧力、株安などの影響を受けて週間安値の113.33円まで下落。しかし21日火曜日にはリスク回避の動きが一服。米国株が上昇し、米債利回りも上昇する中、114円台まで回復。その後もじりじりと小幅に上昇したものの、クリスマス休暇などもあって、全体的に落ち着いた値動きとなった。今週も27日28日が英国をはじめ祝日の国が多いうえに、注目度が高い経済指標の発表も少ないため、先週末のような様子見ムードの動意が薄い展開が続くと見られる。(市場営業部/塚田)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
12/28(火)	(日本) 有効求人倍率	1.16
12/28(火)	(日本) 失業率	2.7%
12/30(木)	(米国) MNIシカゴPMI	62.2
12/31(金)	(中国) 非製造業PMI	52.0
12/31(金)	(中国) 製造業PMI	50.0

USD/JPY (5年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
嵯峨大輝	113.50 - 114.90	オミクロン株警戒の後退から、底堅い展開が続く一方で、手掛かりとなる材料乏しく、上値も限定的になると予想。
三原大希	113.90 - 115.20	コロナウイルスの経口治療薬の承認が米国にて下り、リスクオンムードが高まりつつある中、ドル円は底堅い推移を予想。

2. 円金利相場概況

年内は特段のイベントもなく、年末を控え閑散相場か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



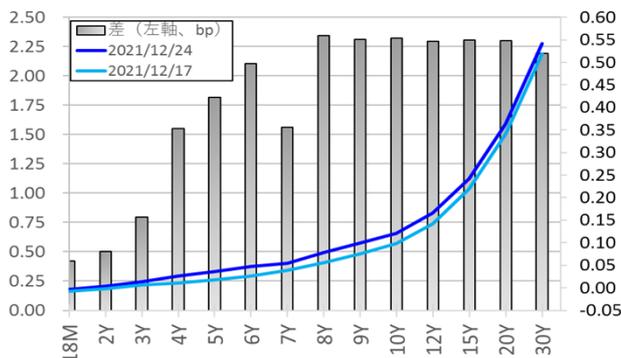
(出所) Bloomberg

コメント

年内の主要イベント通過により、先週は海外勢がクリスマス休暇で薄商いの中、オミクロン株へのリスク回避ムードが後退したことにより、週半ばにかけて円金利は0.06%台まで上昇した。前週末に欧米等で感染者急増に伴う行動規制強化実施により、週初はリスク回避ムードが強まり、円金利は低下。しかし、その後は市場のリスクセンチメントが回復し、株高・金利上昇に転じる格好となった。週後半は、ロイターより来年度の国債発行計画において10年債が増発される見通しとの報道が出されるも、市場への反応は限定的。翌日に財務省より正式発表されるも概ね想定通りであり、国内材料も一巡したことから動意に乏しい相場となった。今週は日銀の国債買入計画の発表以外に特段のイベントもなく、年末ムードで閑散相場が見込まれる。依然としてオミクロン株への不透明感が強いほか、海外では利上げにより将来的な景気減速懸念が高まるとして長期金利は上昇しづらいため地合いが続くと考えられる。(市場営業部/福永)

金利スワップ変化（1週間）

(%)



5年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.05% - 0.09%	日銀の国債買入れ予定発表後は、材料難から小動きで推移する見通し。但し、海外勢のリスクオンによる金利上昇には留意。
加藤祐樹	0.04% - 0.08%	年末でイベントも少なく、動意に欠ける展開を予想。年明けの国債入札や米雇用統計発表を控え、手控えムードか。

ポンド相場アップデート

インフレ抑制に向けたBOEの利上げ実施がポンド相場を下支え

・BOE金融政策

英国中央銀行(BOE)は12月16日の金融政策理事会(MPC)で、賛成8人、反対1人の賛成多数で政策金利を0.15ポイント引き上げ、0.25%にすると発表。また、国債の買い入れ残高を8750億ポンド、社債の買い入れ残高を200億ポンド維持することに全会一致で採決した。新型コロナウイルス感染拡大以降、金融政策の正常化に踏み切ったのは日米欧の主要中央銀行で初めてとなり、同行の利上げは2018年8月以来、約3年ぶりとなる(図1)。英国では新型コロナウイルスの新たな変異株(オミクロン株)の感染拡大が急増する中、今回も利上げの見送りとの予想がコンセンサスとなる中、急速に進む物価の上振れ、雇用のひっ迫が決定打になったとみられる。

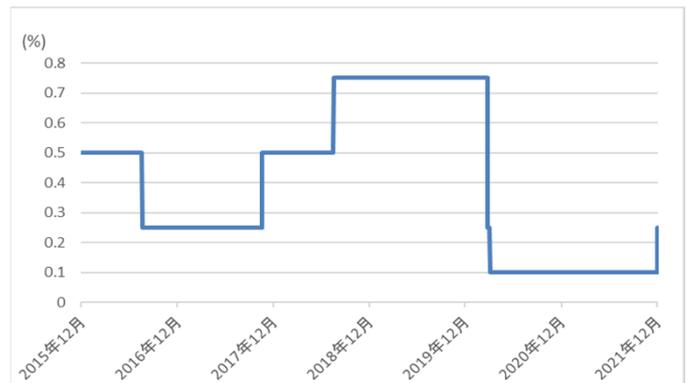
・英国経済動向

英国立統局(ONS)が12月15日に発表した11月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比で5.1%(事前予想4.7%)、コアCPIは前年同月比で4.0%(事前予想3.7%)と共に上振れた。また、11月の小売物価指数(RPI)も前年同月比7.1%まで加速し、1991年3月以来の高水準となった。インフレ率を押し上げた主因は輸送部門で、主に自動車燃料や中古車価格の上昇が顕著に表れたが、物価の上振れは幅広い分野まで広がっており、MPC後に発表された議事要旨では2022年4月に、インフレ率が6%前後まで上昇する公算であり、2022年後半にはピークに達して低下すると予想されている。(図2)

・今後のポンド相場展開

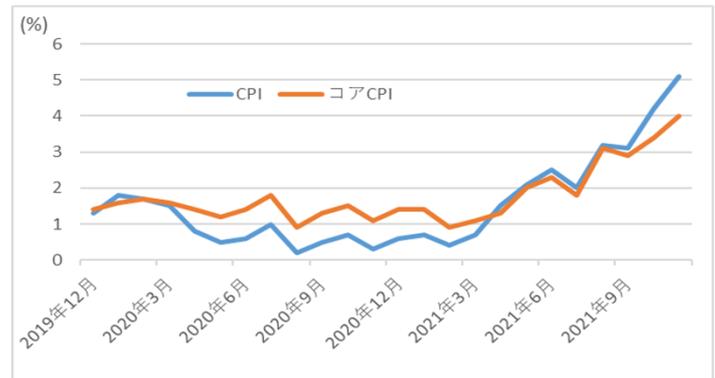
BOEのサプライズ利上げを受け、足元の英国10年金利は上昇するも、ポンド相場の値幅は限定的に留まっている(図3)。また、オミクロン株は欧州を中心に感染が広がっている一方、重症化しないとの見方があるため、経済に与える影響は不透明だ。物価の上振れが長期化するとみられる中、オミクロン株による景気への下振れリスクが限定的であるとされる限り、追加利上げは近いうちに検討されることが想定される。一方、直近の12月の英国総合購買担当者景気指数(PMI)速報値は53.2で、前月の57.6から低下し、10カ月ぶりの低水準まで落ち込む等、感染再拡大により急速な物価上昇圧力に歯止めがかかるか注目される。(市場営業部 山下)

【図1】英国 政策金利推移



出展: Bloomberg

【図2】英国 消費者物価指数(前年比)



出展: Bloomberg

【図3】英ポンド相場



出展: Bloomberg

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会